

掲載日 (2026/04/08)

書籍の概要

世界の高等教育政策比較を主軸に、学修成果の測定研究、学修成果とIRのレリバンス、STEMと人文・社会系分野の融合、学生および専門分野別のグローバル・コンピテンス(GC)の修得状況の国際比較に関する研究など、長きにわたって牽引してきた山田礼子教授の退官を記念し、その功績を讃えるべく氏と関わりある気鋭の研究者・教育者らが結集した。現代における大学教育・比較教育研究のまさに真髄となる一冊！

著者から一言

高等教育研究が対象としている課題は多岐にわたります。学修成果の測定研究、学修成果とIRのレリバンス、STEMと人文・社会系分野の融合、学生および専門分野別のグローバル・コンピテンス(GC)など、そうした課題がどのような問題意識のもとに政策となり、大学に立ち現れているのか、大学問題の淵源と評価に迫る本となっています。

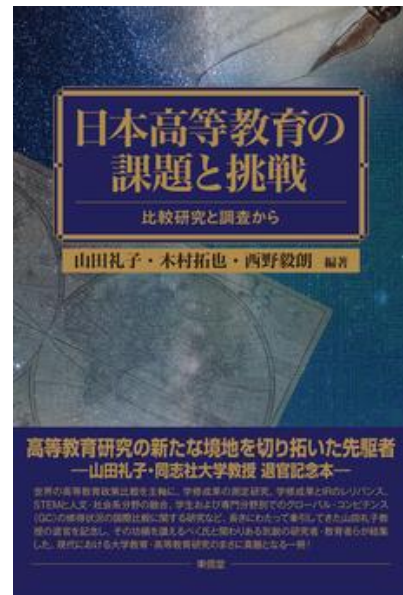
人間環境学研究院 木村拓也

【お問合せ先】

九州大学 人間環境学研究院 木村拓也(キムラ タクヤ)

E-Mail : kimura.takuya.329@m.kyushu-u.ac.jp

[*を@に換えてください]



日本高等教育の課題と挑戦： 比較研究と調査から

山田礼子・木村拓也・西野毅朗編著

東信堂/368 ページ/2026 年 1 月 出版

目次

- 第 1 部 日本の高等教育の現状と課題
 - 第1章 比較調査研究からみた高等教育の課題と挑戦
 - 第2章 高等教育における設置基準の機能と課題
 - 第3章 現代日本の大学における教養教育
 - 第4章 日本のSTEM 高等教育分野における留学の意義
 - 第5章 新たな高等教育の国際化
 - 第6章 オンライン授業の導入は大学生の学修行動に
変容をもたらすのか
 - 第7章 内部質保証の実質化に資する短期大学生調査の
分野分類コードの研究開発
- 第 2 部 国際比較から考える日本の高等教育
 - 第8章 現代人の教養教育とAI 時代の科学技術との共存
 - 第9章 STEM 高等教育政策の国際比較
 - 第10章 グローバル化を目指す高等教育環境で日本文化
を伝える
 - 第11章 学士課程における卒業研究の国際比較
 - 第12章 学生調査とその国際比較
 - 第13章 大学の情報公表と学生調査とインスティテュー
ショナル・リサーチ (IR) の意義
 - 第14章 米国における親学歴・所得と学修行動のレリバ
ンス
 - 第15章 フランスにおける高校段階の進路選択の「敗者
復活」の可能性
- 第 3 部 日本の高等教育の未来
 - 第16章 日本の高等教育の未来と展望